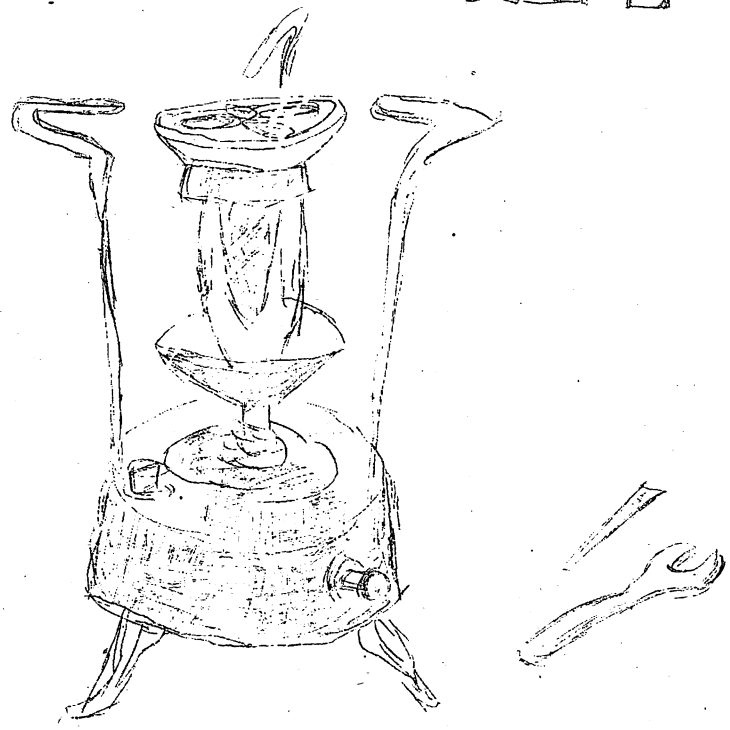


井筒 氏の

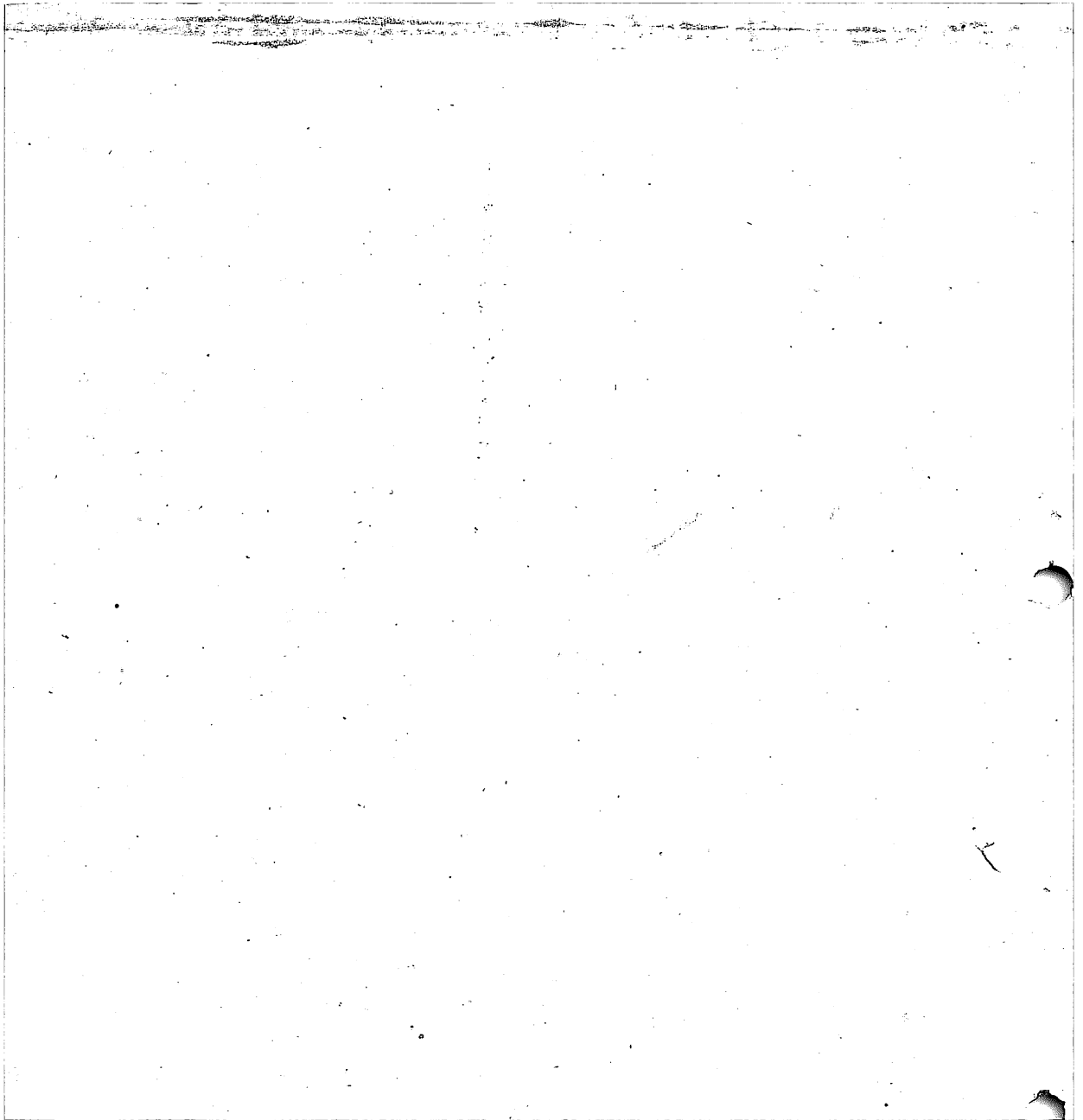
# 山行報告

夏 2



信州大学

伊那・松本山岳部



# 北下縦走山行報告

※ Member 川口 (ESSEN) 柴田 (装備)

※ 期間 7月22日 ~ 7月28日

## ※ 行動記録

○ 7月22日 快晴

松本 — 扇沢 — 大沢小屋 — マヤクボ沢出合  
(8=17) (10=50) (12=10) (2=40)

扇沢より汗たくさんになり針ノ木雪溪を登った。  
「ド」と呼ばれる所より傾斜が増した。扇沢より  
3ピッチでマヤクボ沢出合に着いた。川口がマ  
ヤクボ沢を登り針ノ木を征服した。雪溪の近く  
だったので夜はさすがに寒くエラフカバーだけの  
ほくほ ほとんど眠れなかった

○ 7月23日 快晴

C<sub>1</sub> — 針ノ木峠 ⇄ (針ノ木岳) — 南沢出合 — 平ノ渡  
(5=15) (6=05) (7=20) (11=25) (4=20)

— マヤクボ谷キャンプ地  
(5=50)

針ノ木岳からの展望は抜群であった。特に  
五色ヶ原はすばらしい所に思われた。峠からの  
下りはすばい道。途中からは道などほとんどなくな  
っていった。二人はエラク熱の河原をおろきおろき  
下った。予定時刻が大幅に遅れたため予定を  
変更し五色に行くために平ノ渡を渡った。

7月24日

快晴

C<sub>2</sub> — 刈安峠 — 五色ヶ原 — 鷲山 — 越中沢山  
(5=20) (7=05) (9=40) (12=15) (1=45)

— 最底コル — スゴ乗越天場 (高山の下)  
(3=00) (6=10)

五色の登りの途中どこかの女子高の団体とすれかわり  
五色はすばらしい天国みたいだ"ここで一泊したいと思  
ったが後が苦しいので止めた。ここから天場までは  
ギビシかった。天場は水が不便で、ブヨも多々、不快  
だった。しかし夕暮れに池が赤く染まった光景は印  
象的だった。

7月25日

快晴 ちくちく

C<sub>3</sub> — 北薬師 — 薬師岳 — 薬師峠 (泊)  
(5=30) (7=00) (9=05) (11=30)

薬師までは快調なペースであった。薬師山頂では  
がすのため展望もなく印象はあまりない。しかしカール  
はすばらしいかった。薬師平はすばらしい場所だった  
下りは途中で少し道を間違え、ヤブコギを少し強い  
られた。この日は午後昼寝などしてゆっくり出来た。

(以上文責柴田)

7月26日

快晴 午後霧

C<sub>4</sub> — 北ノ俣岳 — 黒部五郎岳 — 三徳小屋  
(4=55) (7=40) (10=10) (12=50)

今日も又快晴だ。二人は日ノ出おに出發。日ノ出お  
は非常に快適である。北ノ俣岳迄三ツツ、薬師が  
背後にとりしり坐っている。黒部五郎の肩に着く頃は  
がすが出始めた。頂上を踏まずにカールに下る  
カール底は舞園のような所だった。ここからまき道

を通り黒部小屋に着いた。かすがが晴れず雨が降りきりであり、又柴田の体調も悪いので三達をまき三俣小屋の天場に泊った。夕方、遠くの方から雷鳴が聞えた。

○ 7月27日

快晴午後くもり

C<sub>5</sub> — 双六小屋 — 秩父平 — 抜戸 — 小笠原場  
(6=00) (8=00) (11=20) (1=00) (2=10)

心配していた雨が降らず、今日は又快晴、目覚しを持って行かなかったので寝過ぎてしまった。三達双六をまき、双六小屋に至る。池の付近で一本小屋より折れ、巻越え秩父平に着く。この稜系泉からは槍、穂高の飛が倒れがよく見えた。抜戸を通り越し、2ピッチで天場についた。夕方はかすが曇くなった。

○ 7月28日

快晴

C<sub>6</sub> ⇔ 笠ヶ岳 笠新道 新穂高  
(4=25) (4=45) (1=00)

早朝起床、笠をピストン目/出の決定的瞬間をカメラにおさめる、杓子平を経て笠新道を下降二ピッチ連続の下りはつらかった。河原に出て、新穂高までトボトボ歩く。柴田はバクが上高地で、俺は西ホ山荘を越え上高地へ。  
(以上文責川口)

## 反省

(全般)

1. 一年生とうしだったので得るところが少かった。
2. コースの研究を十分やっておくべきだった。  
(針, 木谷など)
3. 好天のために、とても楽しかった。

MEMBER

鳥越 洋一 豊・林 2年生 凸、歩升、会計、E、R、M、馬標  
三坂 健次 " 2年生 裝備、氣象、記録

◇記録

[7月27日(水)]  
松本に7貫出し。三坂突撃

[7月30日(木)]

- 5:24 松本駅発 ③
- 6:55 白馬駅 ①
- 7:15 1500m
- 7:45 猿倉 ①
- 7:55
- 8:40
- 8:50
- 9:13 白馬尻 ②
- 9:35 5ん5の1
- 10:25 雪ヶ丘 視界 10m
- 10:35
- 11:25 雪ヶ丘を抜けて
- 11:45 とこ3。5ん5の2
- 12:20 小坂雪ヶ丘 ①
- 12:40 シューバット R
- 13:08 赤花畑 ①
- 13:20 写真撮影
- 13:45 小屋の後T.S. ①
- 13:50 谷(11時方向) R
- 13:30 飯糰 ③

雪溪上を地下道で歩くのは4×タイ。女の子の多いこと。

[7月31日]

- 4:00 起床 ①
- 6:00 発 ①
- 6:30 白馬 ②
- 6:35 カルツツ
- 7:22 2512ヒウ ①
- 7:30 付。コマツサ
- 8:00 針巻東側 ①
- 8:15 5ん5
- 9:00 雪倉岳 ①
- 9:15
- 9:47 大杉林と3 ①
- 10:15 5ん5と2 ①
- 11:05 温泉多し。
- 11:22 ミズバシ
- 11:35 左へ水平道を
- 11:47 丸入正Y点。シャーマット
- 12:35 工事中。①
- 12:40 (下道430mヒウ) 上道と3
- 12:47 水場
- 13:00
- 13:15 朝日小屋付近
- 14:00 T.S. (朝日小屋) Δ2098近の温泉まで散策。7時50-500m 16:40-9時(15分)

すっきりとは晴れたいけれど、急ぐまよい。高山植物の観察。8時すぎ最後は朝日小屋まで。朝日小屋はどくまで。遠くまで道を歩いた。

[8月1日]

- 4:30 起床 ①
- 6:30 発 ①
- 7:20 伊豆川筋の
- 7:30 コツ。①
- 8:20 7合目以下
- 8:40 5ん5の1
- 9:25 3合目 ①
- 9:35
- 10:10 北沢小屋付近
- 11:00 の河原 5ん5の2 ①
- 11:45 引き返す。
- 12:25 もとのと3
- 12:55 ①
- 13:05 T.S. (丸上流) 観音 5ん5の3 5ん5と3。タコ。夕飯(お礼)
- いよいよ北谷にはいた。感慨といふほどにそれだけだ。下はやけに暑い。

扇能氏のパーティーは朝日小屋で。はるか北の方面。初登山。白馬山。道はよくすべり!

えらく急な道で。うんせりする。

かなり新しい山道の跡跡がある2人。

長口の出口まで行けなかった。

川の州判(512)15分ほど。茶の湯。川原もよく。お昼の。と来た。ここが。まともな飯屋。

[8月2日]

況瀬?

前線通過で。うぐはし時々強い雨。水は。C(4)ばかり。お。に。て。して。した。糸冬。エ。マ。ア。一。下。下。の。雨。の。多。い。7時(11:00)まで。11:00(11:00)まで。

7時(11:00)まで。11:00(11:00)まで。

8月3日

4:20起床 @ エカス

6:15 発

6:55 マガリ谷 出合

7:05 (これ以降は) @

8:00

8:10

8:55 ブナ平 出口のコル

9:00 5ん3くの1

9:25 ティサツ ことで快調

11:30 イフリ谷 出合

12:22 5ん3くの2

12:55

13:10

13:45

14:00

14:20

14:30

14:50 いわはせの楽

15:10 食う。

15:20 5ん3くの3

15:50 ティサツ 引き返す。

16:30 北東の尾根 下り

16:45 再び引き返す。

17:10

9食

近づく

×アフリ谷の出口は、かなり急な下り

これほど急な下りはないが、かなり急な下りである

行いやすさ(足音)があるのではないかと

思ったが違った。

・イフリ谷への下り

(北東の尾根が)

・熊平を見渡す

・引き返す際、急な下りを見失う。(急な下りを見失う)

印をたどれば良かった)が、よく見えない。

ブナ平の急な下りについて

・急な下りであるが、足音がよく

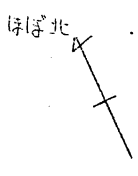
聞こえるので、急な下りでも

歩ける。急な下りであるが、足音がよく

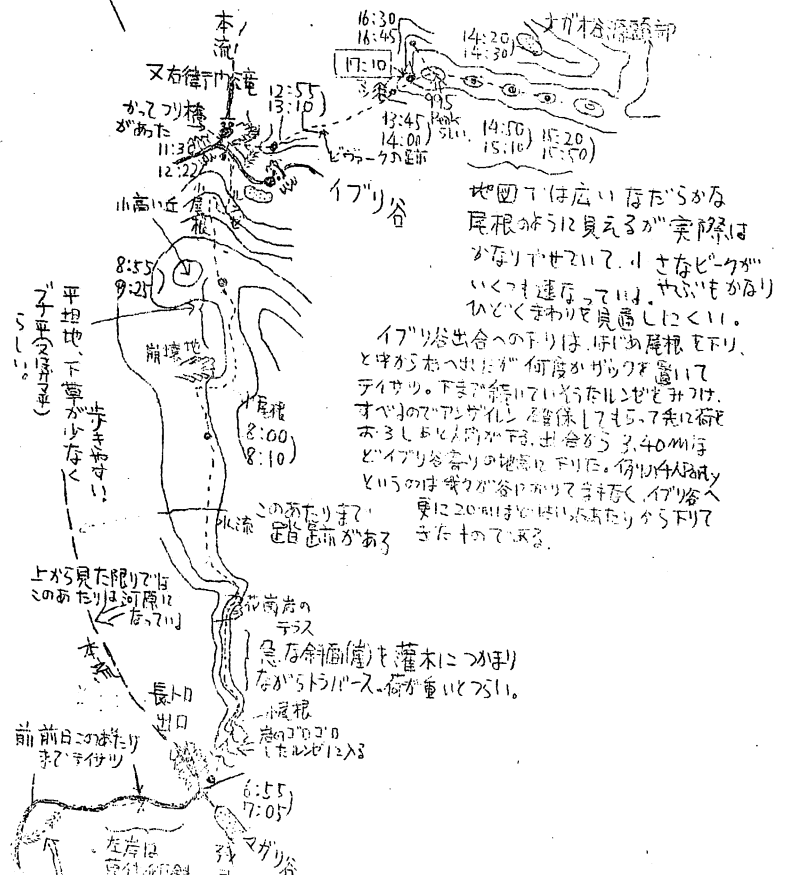
聞こえるので、急な下りでも歩ける。

・急な下りであるが、足音がよく

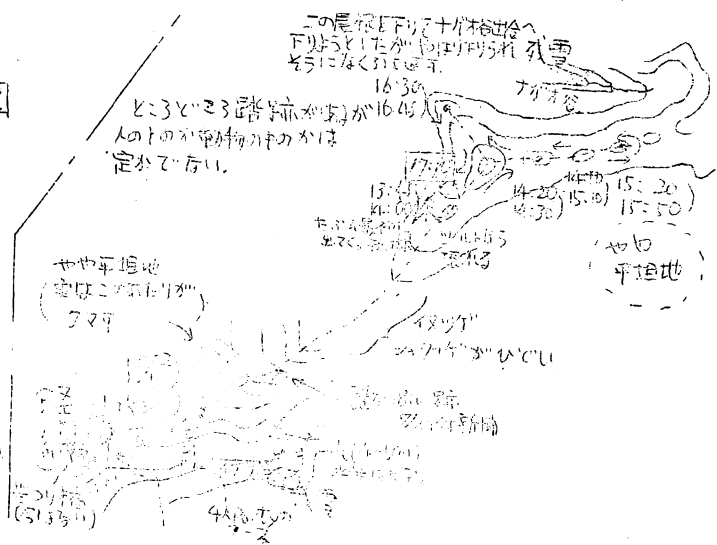
聞こえるので、急な下りでも歩ける。



ナガカ谷は上から見ると残雪があり、かなり急な下りであるので、下降するのをやめた。



《イフリ谷出合以後の部分の拡大図》



ブナ平の急な下りについて  
 ・急な下りであるが、足音がよく聞こえるので、急な下りでも歩ける。  
 ・急な下りであるが、足音がよく聞こえるので、急な下りでも歩ける。  
 ・急な下りであるが、足音がよく聞こえるので、急な下りでも歩ける。



[8月4日]

4:45起床

6:05 朝食

6:40 出発

大きな谷の奥から下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る

7:15 熊平

肉体的精神的疲労  
大きい判断から  
ここに停滞。

8:00 水くみにイナリ谷出合

水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合  
水くみにイナリ谷出合

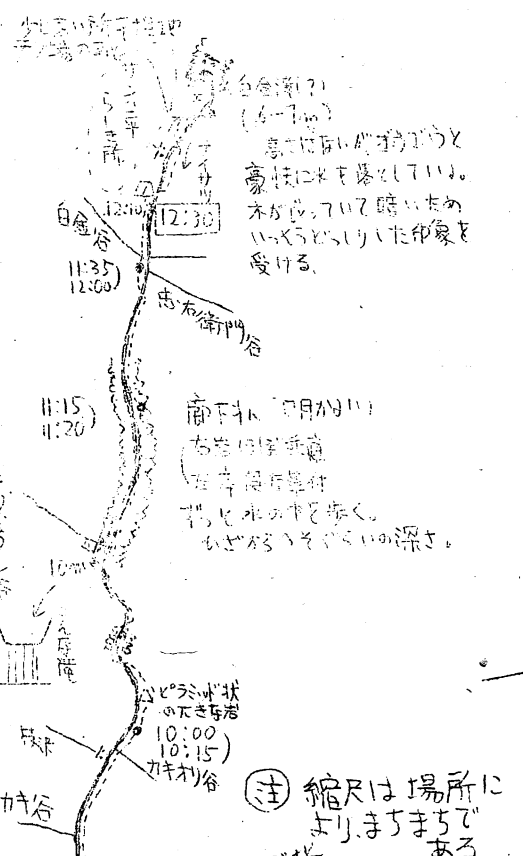
終日 一時ホツホツ  
が雷雨  
正火はできる。

5日(木) 十画

おろけ沢共川が世帯の  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る  
川が激しく流れて下る

サンゴ平はテン場から上の  
崖の上のぼろぼろであるが下から  
見た限りでは、きれいなぼろぼろ  
である。水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る

サンゴ平は白金滝(12)の  
滝下所で行く下からこの滝が  
白金滝だとすると、水が激しく  
流れて下る。水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る  
水が激しく流れて下る



[8月5日]

4:35起床

6:45 発 上ヶ原

7:05 ティサツ

7:45 ①

9:00 ナガオ谷出合

ナガオ谷出合  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に  
谷の奥の奥に

10:00 5ん5その1

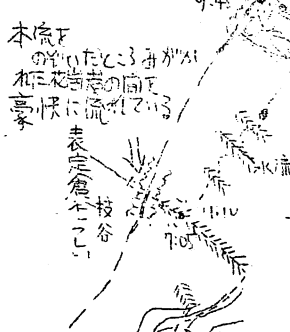
10:15 ② 上ヶ原の空  
は晴れ

11:15 5ん5その2

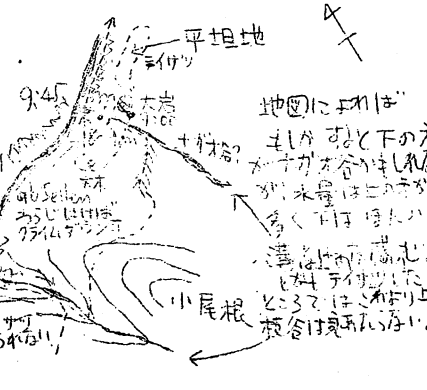
11:35 5ん5その2  
12:00 ティサツ

12:10 ザック置いて  
12:30 ティサツ

16:20 夕食



《ナガオ谷出合付近拡大図》









後立山縦走 8月1日～5日.

CL 笠原敬一 高橋雄治 'ES.

浅野俊充 EQ. 三井和夫 その他.

### 行動記録

8/1 ①→② 松本(5:24) — 11リフト終点(9:30) — <sup>4Pitch.</sup>唐松 <sup>テニナ場.</sup>(12:30)  
タクシー、汽車、バス、ケーブル、リフトを乗り継ぐ。3ピッチ目に小雨になる。唐松登頂諦める。水場まで少し遠かった。(高橋記)

8/2 ②→③ T.S(4:55) — <sup>2P.</sup>五龍山荘(6:40) — <sup>4P.</sup>鹿島檜南峰(11:50)  
<sup>1P.</sup>冷池(13:00) <sup>2P.</sup>種池(14:45).

朝から風をまじえた雨。大黒岳、白岳、切戸あたりはシッパい。切戸小屋の午前から南峰までのピッチは長く、若かった。冷池あたりで雨がやむ。爺ヶ岳の登りは非常に苦しい。種池から十分ぐらいのテニ場に設営。(高橋記)

8/3 ③→④ T.S(5:10) — 岩小屋沢岳(6:40) — 鳴沢(7:25) — 赤沢岳(8:15) — スバリ岳(9:20) — 針ノ木岳(10:40) — 針ノ木小屋(11:20)  
グリセード(12:00) — 針ノ木沢出合(13:10) — 南沢出合(15:10).

快調に1本毎にピッチを踏む。剣、立山の展望がよい。針ノ木沢でグリセードをして遊ぶ。針ノ木谷の道はあれていて悪い。

8/4 ④ T.S(5:05) — 南沢ぬけ(9:00) — 南沢岳の稜線に出る(10:25) — 烏帽子小屋(11:50) — ミツ岳(13:05) — 野口五郎小屋(14:20) — 東沢乗越(16:00) — 岩苔乗越(17:10).

荒れた南沢をつめ、踏み跡を見失い、箆こぎ2 Pitch.その後、急な直登している道を登り、稜線に出る。4ニゲルマ、岩カガミの咲き乱れるお花畑を4ニタラ行く。縦走路は高速道路で快調とぼす。ミツ岳あたりで小雨まじりの風に打たれる。長い長い非常に長い道を惰性で行く。岩苔乗越が見えたるとたんみんな思わず走り出す。C.L.はヒックリ。

8/5 ○ T-S(5:40) — 三保山荘(6:30) — 双六小屋(7:30)  
— 靴沢岳(8:20) — 槍の肩(11:20) <sup>休憩</sup>(12:50) —  
— の保小屋(15:40) — 横尾(16:40) — 徳沢(17:20) —  
Summer Tent到着(19:10).

黒野源流から槍の肩までバンバン飛ばす。  
槍の高までの登りは非常に苦しく、みんな連日の疲れ  
が出てバテた。高からズグサの Leader を除き、大槍  
に登頂。槍沢の下りから、みな一層バテ、S-Tがあるか  
ら歩いていらいる状態であった。

ESSEN — 計画が、食糧を最少限に切りつ  
めて、軽量にしなければ成功は ~~難~~ 難しい山行であり、  
苦労があった。野菜は玉ネギ 1日4人で1コのみ。これ  
は特筆すべき喜事であります。しかし、切りつめた割  
には不満が少なかつた様だ。切り干、大根、蕎麦干、魚  
のヒモはここからも使っていける食品であろう。

EQUIPMENT — 芒草着物が多かった。  
フライシートのみでテントの本体を持っていか  
なかつたため非常に寒かつた。軽量化を図つた  
が徹底しなかつた。

文責、高橋、三井

1970 夏山

北アルプス山行報告

5. 期間 8/1 ~ 8/13

5. Member

市野和雄 (8/9下山)	大安徹雄 (C.L., 渉外)
小根田一郎 (S.L. 記録)	金野美登志 (装備)
菅原憲二 (医療, 会計)	中田茂 (Essen)
間瀬健治 (気象, 装備)	村上純一 (Essen)

5. 報告

8/1 ① 上方ガス → ●

(松本 — 細野 — 兔平 — 八方屋根 — 唐松岳 T.S.)

AM 3:30 E当(金野・中田)起床 — 5:10 部屋発 — 白馬クーゲル駅(7:00~40)  
— 兔平(8:00) — カルペンツト終点(9:00) — オケルン下(10:05) — (11:15~30)  
— (11:40~50) — (12:10~45) — 丸山の少し先(13:05) — 唐松T.S.(14:30)

いよいよ夏山。初めの意志を変えて、兔平まで、ロープウェイを使う。  
しかも、霧空が見えて、気持ちよく、兔平、出発前には、サンオイルを  
ぬったワシだが、上に行く程、ガス一色になり、4 pitch目をたりにて、  
雨が降り出した。やはり、16日間分は、さすがに重たく、肩に  
食い込む。皆んな、壺を食ひしぼって、がんばる。汗が、たらたら、  
これで、陽が、かかと照れば、夏山4-ド満点なのだが、  
たいた。アクシデントもなく、無事にラン場に着了。  
初日は、まずまず。 (大安)

8/2 前夜からの雨が、断続的に降り、ガスと雨の中の行動。

(唐松T.S. — 大黒銅山山跡 — 餓鬼の田舎 — 祖母谷温泉T.S.)

AM 3:30 E当(間瀬・菅原)起床 5:30 T.S.発 — (すぐに急な雪深に

(7:20~7:40) 1pitch が長すぎたよって。 — (中田が足をすべらして、  
 約 10m スリップ) — (8:10~40) — (9:30~40) — (10:35~40) —  
 餓鬼の田ボ (11:15) — 12:20. 雨具着用のため小休止, 間瀬さんが足の  
 痛みを訴え、荷を減らし出発。 — (12:50~13:10) 間瀬さんの足, さらに  
 悪くなり、荷を土巻生が分担, 市野さんが行きて、後続。 — (13:45~14:00)  
 — 祖母谷温泉 T.S. (14:15)

今日は、昨日の小生に代わり、間瀬さんが故障、重荷を背負ったの  
 下降は、大変、つかれた。早くラン場に着くと楽でよね。  
 (鬼太郎)

8/3

◎

(祖母谷温泉 T.S. — ケヤキ平 — 阿曾原 T.S.)

AM 3:30 E 当 (金野・村上) 起床, 5:30 T.S. 発 — (6:00) ケヤキ平 —  
 (6:30) ケヤキ平からの登りにかかって。 — (7:30) ケヤキ平上部, 中田。  
 ものすごくバテている。 — (8:15) 小さなトンネルをこえた所 — (9:00)  
 志合谷トンネルの前 — (10:15) — (11:10) 餓鬼谷が合流するの、  
 見えてから、少し行った所。小根田さんが後 1pitch だとまかに言う。  
 — (12:00) 阿曾原 T.S., 設置、昼食などの後, PM 3:00 まで自由時間  
 となり、市野さん, 間瀬さん, 金野, 菅尾, 中田, 5分程下の風呂に行く。

出発の時、ザックを背負って、ものすごく重く感じられた。ケヤキ平の  
 登りで、バラバテになった。そして、水平道になって、楽かなと思ったのも  
 つかの間、今度は、2日分の疲労が、バシヤと出たのが、フラフラになる。  
 志合谷のところで、水をたくさん飲めたのは、うれしかった。(汗が  
 たくさん出た) 12:00 にキャンプ地につけて、カンビツでできたのは、  
 ものすごく、ものすごくうれしい。最後の 1pitch は、もう、だめだと思っ  
 程、ものすごくバラた。おまけに、下りもあって、足が、ガクガクしていた。

(和尚)

8/4

午前中 ◎

午後 ④ → ◎

(阿曾原 T.S. — 仙人谷 — 二股 T.S.)

AM E 当 (菅尾・中田) 起床, 5:30 T.S. 発 — (5:50) 十字岬への分岐 —

3:30  
 — (6:25~35) 阿曾原峠 — (7:40~8:15) 雪渓をぬけて、仙人湯へ30分所 —

(8:50~9:00) 仙人湯の上 (木々が倒れた) — (9:45~5) 右へ左へ、雪渓を



とって、つきあたり大きな岩あり。— (10:45~11:45) 仙人峠、雨降り出す。大安、小根田、菅尾、中田、金野、村上、仙人池へ、往復、ア〜ア〜して帰ってくる。— (13:00) ニ股 T.S. 都立大のわく、ここは、テニ場不適地だといつて、始末書を「かかされた」といふこと。粟田、笠原さんのことまかれる。曇り空をついて後髪ひかれる阿曾原温泉を出発。最初の登りはかなりしごかれる。2ピッチのおわりより雪渓に入る。仙人湯付近草多し。4ピッチより再び雪渓に入る。左へ左へとシートをとる。ぐんぐん高度をかかせ、雪渓はいよいよ狭くなる。まだまだかと思っていると草地の恐らくはお花畑であろう峠へでる。ここにて一時間の大休止。二俣への下りユル配して、石足関節の痛み気にはらぎ、右に小突、三の突の雪渓をみながら下る。雨がいらぬか降る。そしてテニ場へ。どうしていつもテントを張るときの雨は止み、すかすかしいテニ場をつくれるのであろう。ついでいる。今日はお疲れ様でした。また明日。(向瀬)

8/5 午前中◎ 午後①

〈二俣—黒部④4タム〉  
 a.m. 3.15 Essen (村上、向瀬) 起床 — 3.50 Essen 南端 — 5.00 出発 —  
 5.45 杉木橋を渡る (ザイル使用) — 草付の難所、ザイル使用 (6.50-8.40)  
 — ハシゴ段乗越 (9.20-9.35) — 洗顔 (10.20-10.35) — 内蔵助平  
 (10.50-11.10) — 丸山東壁下部 (12.00-12.15) — 一本 (1.10-1.20)  
 — 黒部タム T.S. p.m. 2.10

Essen 当番のミスにより2時過ぎにベルが鳴り、2起こされる。2ピッチめの草付の登り、フッシュをして下りて時間をとられる。ジャンパーを着ないと寒い感じ。ハシゴ段乗越についても何も見えない。下りは小根田氏がどんどんとぼしてヒイコラいって追いかける。彼はまるで、はやての如し。内蔵助平の手前で少し中華を食べようとの意見も大野氏は認めず、彼はまさか鬼の如し。内蔵助平も大したところではなかった。黒部丸山東壁はずごくがっちりよかった。御前沢までの予定だったが、テニ場がなく、何かキジ場の横に張った様は臭いでガックリきた。5日目というのに荷が減らない。明日こそ明日こそ希望も無残にも破れ、意気消沈。(菅尾)

8/6 ◎ — ① — 一時● — ①

〈御前沢横 — 東沢出合〉  
 a.m. 3.15 Essen 当起床 — 5.05 出発 (モルゲンロート有り) —  
 ルーア式トンネル出口 (5.50-6.00) — タム横 (トンネル-展望台-  
 階段) 最後の通路の売店が7.00にしかあかず待つことにする。多分  
 7.00にはあかないといふことで再度出発 — 待望のタムについた  
 (7.00-7.15) — 湖より大部登っている道上 (7.50-8.20) — 道不明  
 直撃キジ打 (8.35-9.00) — 1200の渡船に乗るためとばす。 — 平の渡  
 屋敷、大立小屋へ高天ヶ原新道のことを聞きに行く (11.43) — 船に  
 乗る (12.00-12.07) — 昼食、昼寝 (12.15-1.00) — 東沢出合  
 p.m. 2.40

黒部の登り、体の調子悪く、だいぶつかれていることを感じた。タムでは非常に迷って1時間のロスをしました。心配して平の渡までの道、非常によくよかった。平の渡クロコン丸の船長はいいすかん如であった。東沢出合は去年1969の水害のたや広い河原になつておろ広い砂浜あり。(菅尾)

8/7 停泊 (東沢山口)

a.m. 5.00起床 - 6.00朝食 - 夕の雨のため停滞と決定、夕ベリク  
- 9.15天気回復をとる - 10.30 昼食(ホットケーキ)作成開始  
12.00昼寝 - a.m. 3.00起床 雨はよがっている - 4.30夕食(スパ  
ドッティとマカロニラーメン) - 7.00就寝

休息日を中日でとれたのはよかった。明日から又歩かねばならない。今夜はゆっくりねいて明日のファイトをやしなおう (コンノ)

8/8 <東沢出合 - 赤牛岳 - 温泉沢の頭 - 高天ヶ原>

a.m. 3.00 Essen 当(向セ、中田)起床、ラーメン作りはじめる  
- 4.55 食事の後東沢出合出発。遺跡碑がある。この碑のことは父の俳句の雑誌で知っていた。 - 市野氏、菅尾氏が甲を足す。小生は靴がたまたまなく痛く遅れてみんなに迷惑をかける。すまへんでした。かんにんや。 - 立山方面をみわたせる小さな草地でパンを少し食べる。小生足痛し(8.00-8.35) - 森林限界を抜け一本、目の前の赤牛岳が高く高くそびえているように思った(ぼてていきました)(9.25-9.35) - 赤牛山頂に立つ。向セ氏はしきりに女の子を気にしている(10.25-11.00) - 山頂を越えてしばらく歩き小生はピークを巻いてはだらかな山伏(東側)でパンを食べる。ここで小生は中田君の後につく(11.25-11.55) - 温泉沢の頭をしばし降りたところ一本とる。 - 一匹生はよくすべった。(12.45-12.55) - 沢の中で一本、大女さんか水か飲み場所をみる。ぼつぼつ飲んだ(1.50-2.00) - テン場着小屋の付近はキヌケの花などがさき、池塘の向を歩きやっついた。大きな石が見つからず、木の枝をバネにしてテントを張るa.m.2.10今日は一気に2日分の行程をかせいで今日の沓敷の遅れをとるかえした。 - 4.00夜のEssenを作りはじめる。今日はハヤシでよ、明日は沈殿! - 8.00就寝

初日に作った靴がはきどくはり足の前に出ず、ふんばりもきかず遅れてしまいい、おいくことできません、どけられてばかりの1日でした。又明日も歩くのが、ここにじっとしていたい。でも早く上高地へ降りたいしな。明白さんがいこう。ここはいいところなわ。静かだし空は青いし又来たいな。あすからは市野さんが下山されるから行くことになる。市野さんどうもありがとございました。(鬼太郎)

8/9 高天ヶ原 晴況

a.m. 4.30 Essen 起床(金野、村上) - 6.00 市野氏下山 -  
11.00 昼食(ヤキメシ) - 2.00 おやつ(ココア、ココナツ)  
- 3.30 夕食用意

昨夜、C.L.より明日は沈殿との事を聞いて全員喜び万才三唱。夜多少遅くまで雑談に花を咲かす。6時過ぎ市野さん出発。どうも長い向ありがとうございました。その後朝長。12.20中田、向セ、菅尾の三氏が温泉に行く。湯の中はア力が湧いており、おまけにぬるく少々期待はあつた。E.C.ムード森。やっぱり山のりで湯はすばらしかった。昼食のヤキメシは辛くてたくさん食べられなかった。朝の残りの信ソバの方がうまかった。Essen当は味をみながら食事を作って下さい。明日は太郎までです。おやすみ。

8/10 <高天原 — 薬師沢出谷 — 太郎川屋>

0.00 3.30 起床 - 3.50 Essen - 5.05 高天原登 - 5.40 高天原降 - 6.25 - 6.35 一本 - 6.35 - 7.55 一本 Essen 薬師沢出谷 - 7.55 - 10.15 薬師沢江保付近 - 11.00 大勢車に出た所で一本、ハゲが下さく見える - 11.35 天馬巻 - 12.30 おやつ(又キムミルウ) - 5.00 Essen (加っつ返) - 8.00 就寝

前野氏と前田氏列が山頂ののろの行動、ものすごく苦しかった。ズクとした。なるのではないか。“ズク”とは何か、きょうはものすごく疲れた。タレかった。感想文が造文である。これは精神的疲労ではないか。ズクを出せ。明日は薬師岳往復です。(中田)

8/11 <薬師岳アタック>

0.00 4.50 Essen 起床 - 6.00 出発 - 7.05 薬師岳頂上 - 9.45 頂上出発 - 10.30 - 12.30 愛知大の塔付近の平原で昼食 - テントサイト 12.45 着 - 15.30 Essen 開始 - 17.00 就寝

天気はいいし朝ヒヤーと出てヒーヒーいって1ピッチで薬師のピークハ。ピークでのんびり昼食、槍がカッコいい。赤牛、水島、想い出の山、温泉沢、想い出のいで湯ぶらぶらとテントへ、愛大の碑の付近はいいとこで、ここでカキーと口をおけで昼食、槍がここのでいい、北録もいい、あすは双六池。長いでおー。がんばっつせ、なあー。(岡瀬)

8/12 <太郎兵江平テニ場 — 双六池 テニ場>

300.0.00 Essen 当 起床 - 5.00 テニ場出発 - 5.35 上の岳手前で一本 - 6.20 上の岳通過 - 6.25 - 6.35 一本、山強く寒い。 - 7.25 - 8.05 黒部五期への登りの途中で昼食。 - 9.10 黒部五期をまいてカールを降り天気回復ととる。 - 10.20 黒部五期小屋より20分程登って一本 - 11.35 三保車庫岳稜線で一本 - 12.30 双六岳を巻いて途中の水場を昼食 - 14.20 双六池テニ場着。 - 17.00 Essen - 20.30 就寝。

稜線歩きは周囲の山々がよく見えて楽しい。笠ヶ岳がきれいな姿に見えた。しかし気象が低く日も強かったの、今までのように汗が出なかったのは快調だった。台風9号の接近で明日は下山になりそう、巻いてみれば入山日から3日は今はちない、前橋もかなり重く何のためにこんなところにきたのかと思ったものだが、だんだん日が落ちていってそんなに気持ちも薄らいできた。明日笠ヶ岳ピストンになるから、最後の残日を楽しみながら一歩一歩歩きたい。(金野)

8/13 <双六 — 槍ヶ岳 — 槍沢 — 稜尾 — 上高地リマテソ>

200.0.00 Essen 当 (岡瀬, 中田) 起床 - 4.35 Essen - 7.00 T.S 出発 - 7.50 - 8.00 一本 - 8.50 - 9.00 一本 - 11.15 - 11.30 槍沢にて一本 - 11.50 - 12.45 一本 - 13.35 - 13.45 一本 - 14.40 - 14.50 一本 - 15.10 - 15.15 お昼参り - 16.11 - 16.25 御神 - 17.00 サマ天着

天気回復を見ると台風9号が近づいているので昨夜、笠ヶ岳をピストンするかどうか迷った。けさの山岳気象解説によると何とかもつー日もちょうどな気配もした水小根田の安全オー主義に動かさずして早いうちに下山すること上決定した。これで去与と2回も笠ヶ岳がだめに。去与は強い雨の中を泣きたい気持ちで歩いた面録尾根も今頃は天気がよくて快調だ。心残りがあったがサマ天に着いてホッと。かたりイェンボなりーターだったけれど、みんなが本当によくがんばっててくみたおかげで何とか

事故もなくうまく下山できた。めでたしめでたし (大母)

## 5. 各係反省

### 1. Essen係

(買出しの時点で)

商品の名柄をほぼきりさせればよかった。分量などがはつきりなかった点があったため単位で表示すれば良かった。ソーセージは計算で出した量より多く買わないと後で足りなくなる。

(朝食)

汁ものは汁が多くないと全くうまくない。朝食でも焼そばなどは食べられない。スパゲティもそれほど時間もいらないから、使ってもいいのではないか。マカロニのスープは、からめの方が食べやすかった。マヨネーズなどでも食べられないのではないか。(サラダのようにして)

(昼食)

アルパインパンは、量のわりには小さくなるし、腹にたまるし、結構、いけました。今後の山行にも積極的に使えば、よいと思う。バターココナツ羊パックは、少なすぎたようだ。アメは、甘いだけでなく少々、酸味のある方がよかった。弁当は、食器に一杯というのは、少し少ないのではないか。

(夕食)

たき込みなどの場合、具が少なかった。肉は、保存もよかったし、かなり食べられた。肉の使用日数が足りなかった。かまめしの素は、比較的よく食べられたように思う。だし粉を使うより、しょう油の方が、味があっさりしている。山と溪谷 9月号の特集の中に、粉末しょう油がでていたが、今後あれを食べてみてはどうだろうか。(日本ジフーズ製) 野菜類の不足一縦走であるので、野菜に、キズが、つき、そして、夏の暑さも加わって、かなり早くいたるのでは、ないか。等配の心配のために、5日間しか、使用しなかったことは、誤算では、ないか。現に玉ネギ、ジャガイモは、10日以上後も、土派にもつことが、証明されました。別に、漬物が、なかったということは、エンセン計画の最大の欠陥であった。

### 2. 装備係

- 出発前の装備の点検に不徹底な面があった。ザイルの巻きなおし、おへらを直前まで忘れていたこと。
- 食料のバックに工夫があるべきだった。詰め方、各人の背負い方。
- 重量計算をすべまだった。
- 石油、メタラジウスなどは、計画通りうまくいった。
- ザイルなどの登山用具は、いかなる時も、非常の場合のために必要だと感ぜられた。
- ローソクは、一本で、4、5日、もったので、余った。

### 3. 気象係

今回は、だいたいいおいて、2年生と1年生をペアにして、天気図をとって、もらって、比較し、注意をよこす程度であった。そこで、天気図がまだ十分にとれているとは、言いがたい。今後、機会のあるごとに、天気図をとるようには、いたただきたい。また、こうしていることが、何か、天気図に振り回されているみたいであるが、山において、天候のちがいが、難易度にも影響する。

するものである。天気さえ良ければ、向でもないところが、又気が悪くて地獄へのランプになるということも、いままでに、数々あった。より安全なより、確実なということが、冒険とどこまでつながるかは、何々の感覚の問題のような気がする。

#### 4. 医療係

- 医療は、薬品請求用紙に薬品名、量などは、記入しては、いけなかったのでもって、リストを作ったのに、役に立たなかったのは残念であったし、又、持って行った薬品の種類や量にも、問題があった。次からは、リストを提出し、その上、保健の先生と相談の必要がありそうだ。
- 薬品は、やはり、医療係が、持って、タッシュに入れておいた方が、良いのではないかと思います。
- 今回は、ケガ人が、多く、むやみに無断で、布バンや、その他の物を使ったので、今、どれ位残っているか、ハッキリかめなかったし、山行の初めに故障をしたのに、後のことを考えないで、使った人が、中にいたことは、残念であった。

#### 5. 会計係

全収入	36000円	(1人4500円)
全支出	35466円	
残金	534円	

支出の内訳	Essen, 準備費	27546円
	マイクロバス代	5600円
	ケーブル代	2320円

#### ⑤ 一人の反省感想

— 菅尾 —

エッセンの計画が、非常に軽量化に重点をおいた為、16日間の縦走にもかかわらず荷がたいして重くなかったのも、結果として楽しかった。しかし、やはりエッセンの負弱さが、しばしば目についた様だった。だし粉もたき込み等の料理には向いて

いるが他の場合はやはり調味料入れの小さなポリタンに入れて持っていった方がよいのではないかと思う。全体として、他人山行なので非常にのんびりした実に楽しさあふれる山行であった。そのせいか、新人会宿の様に早く下山したいと思わなかった。後半は、1、2年だけだったので尚更のんびりムードがあふれていた。それに、高天原や明神で上級生が飲物をおごってくれて、実にうれしかった。大友氏は、恐い人と思っていたが、今回の縦走で、多少なりとも本当の姿を見たような気もしたし、小根田氏とは、故郷の話に花が咲き、金野には、北海道の山の話にミリヨクを感じ、村上のノロケには、ジェラシーを感じ、実に皆の個性が表われ、人間を少しではあるが、理解でき、有意義であった。それにしても、阿曾原の一件は、今、考えても、残念。小生が、C.L.ならもう一度、入浴してもよいと許可したのに、大友さんは、カッコがまって、ク生。このうらみは、一生忘れない。

### — 中 田 —

この山行で得ようとしたものであるが、それは体力の養成である。これは人一倍、体力不足の自分を鍛え、シゴク為の山行であると思ひ参加したのであるが、この目的は、達成できたのではないかと思う。さて本番の山行について感じられたことであるが、13日中の行程のうち、コースを2つしか踏まなかったということは、残念ではあるが面白いと思う。次に2回も風呂に入れたことは、個人的に良かった。思い出に残った。さて、コースに関してであるが、重荷を背負って歩いたわけでは、やはり2:30頃には、1日の行程が終了するぐらいが良いと思います。また、休みですが、50分ないし、45分に1本が、一番最的ではないでしょうか。槍を越えた時は、少々、バテすぎていました。全体からのうけた感想をみると、チームワークつまり、メンバーシップは、うまくいったと思ひます。リーダーシップ及び、リーダーの判断も適切だったのでないでしょうか。最終日、笠ヶ岳を登るが登らないか、でリーダーは迷っておられました。が、万

の場合を考えて、その日サマテンに下ったことは、個人的に良かったと思います。

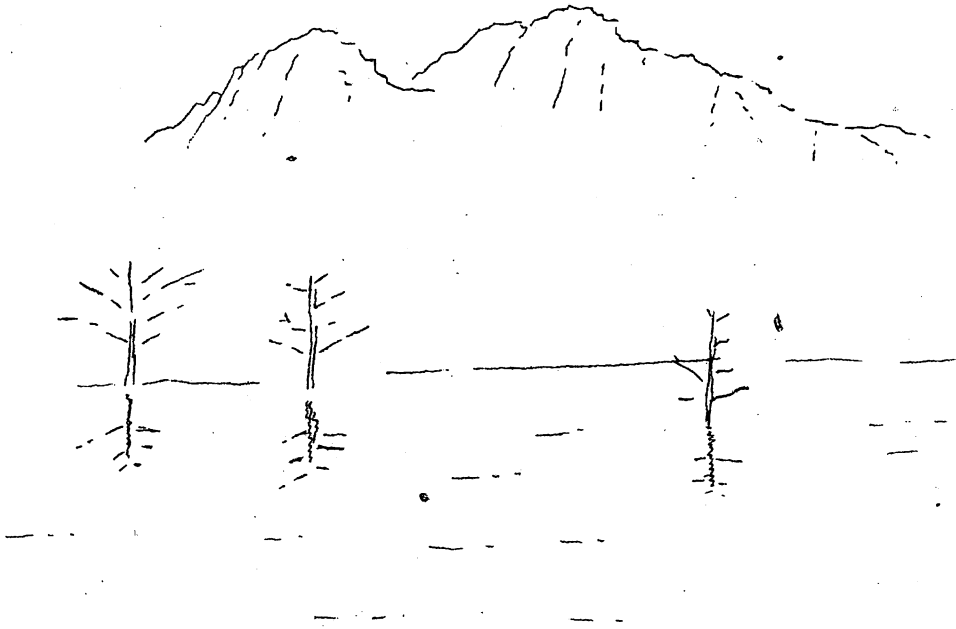
### — 間 瀬 —

こんな楽しい山行は今までに経験してなかったと言ったらオーバーでしょうか。これから、こんな山行が、こんな野郎達と出来るのかと思うと胸がさわぎます。一番、思い出に残っている所と聞かれたら、阿曾原への水平道をおげるでしょう。どうして、あんな立派な道が、できたのが……あそこを落葉の頃、歩けたらと思います。下廊下と結んで、まっすぐ行きましょう。あの温泉は、なにせ『黒部に踊る美女の群れ』がいたもの。菅尾君あたりは、誘えばの子だろう……帰って来て、気になったのは、下宿にあった「週刊文春」8月10日号のグラビアのトップをきった「ヒラリー卿、立山をも征服せり」(エベレストの英雄がみせた「山男のお母本)です。そのこのページにこんなのが書いてありました。そのまま、書いておきます。—羊袖のシャツに羊ズボン、足は、運動用のシューズという軽装、「実は、この姿でクニの山を登っていたら、見知らぬ若い登山者にしかかれてネ……それにしても日本の登山者は装備が過ぎる。もっと必要なナニかがあるのになア」とヒラリー卿。——これと、この前、中田さんとサマテンから西穂→天狗のコル→岳沢で会った、米国の家族の装備とあのユーモラスさを考えると我々の装備は、もう少し考えた方がいいようである。ただし、米国の家族とは、お父さんにお母さんとデニスに似た男の子の3人で、彼等は、おそろいの「96」とかいた大きなダブダブの綿シャツを着て、お母さんが、大きなリュックをかついでいたという、こと、お父さんが、その時、何も、持っていないかったという、ことです。

### — 村 上 —

上高地に着いた時、やっと終わったという感じだった。2週間の長期の山行に飽きもきたというのでなく、やっと苦痛から、解放されるという感じだった。入山前に、

思い描いていた山行などは、初日の靴ずれで一度に  
吹きとんでしまった。山にいて、足を痛めるのは、何と  
苦痛なことか、皆が休める時でも休めないうし、荷が軽  
くなっても全く楽にはならず、何となくめしかったこと  
だろ。今回の山行では、多くの失敗もしたが、全て靴ず  
れをつくったことに収納せれると思う。もちろん、  
元気に歩いたものよりも今後の山行に執る注意は、  
より慎重になることだけが救いである。



J.M



# 中央アルプス記録

Member 〓 福田, 白井, 板東

- 8/6 ②伊那 — ①桂小場 — ②津島神社 — ①西駒山荘  
6:45 7:10~7:20 10:10~10:30 11:20~11:40  
②駒ヶ岳Peak — ②宝剣岳 — ②稜④ — ②松尾避難小屋  
1:00~1:20 2:00~2:15 3:55~4:20 5:40
- 8/7 ②T.S. — ②稜線の岩かけ — ②木曾殿越  
6:15 7:15~7:30 9:30
- 8/8 ②T.S. — ①空木岳Peak — ①南駒ヶ岳Peak —  
5:00 6:15~6:30 7:35~8:00  
①仙涯嶺 — ①越百山Peak — ①奥念文岳Peak —  
8:50~9:00 9:50~10:10 11:15  
①念文岳 — ①途中の草むら — ①池の平 — ①林の中 —  
1:05~1:25 2:25~2:35 3:05~3:15 3:55~4:05  
①鳥帽子岳Peak — ①上片桐  
4:25~4:35 8:15

- 一日目 西駒山荘への登りが急ぎ苦しかったが、後、快調。宝剣へ行く途中、扇能さんに出会い、激励の言葉をもらう。松尾の天場になかなか着かないので神経がいらいらしたが、避難小屋で早飯のテボを発見し、菓子類を食いあじるうちに心がなごみできた。
- 二日目 朝から天候がおそろしくなく、出発してからまもなく、雨と風が激しくなった。北アの大安Partyのことを話題にして過ごす。
- 三日目 行動時間が長く、非常に疲れた。歩行中幾度とすべ、こりりた。

< 〓 板東, 筆 白井 >

## 感想

8月6日 5:45 菟桂小場行きのバスに乗る。同乗した社会人3名、3の5.6人パーティーは女もいて楽しそうにはしゃいでいるが我々は、どおしたわけかも、つりまっていた。1ポッチ目から、先頭白井の速いペースに一瞬あせたが、ポッチが進むにつれて次第に安定していた。かすと時々晴れ間のなかのほとんど緩線とおしの道をひたすら歩いて、二人をぶりに歩いて行く我々を、ロープウェイで家族と上、マ来たまうな人達は一体どう見るのだろうかと思ふ事考を考えながら、途中天気図をとり、5:45 松尾の小屋に着く。天気図には北陸に前線があり、満州南東部の10126hの高気圧が南東に進んで来ている。

8月7日 かす。出発。皆、昨日より荷が重くなっている。小屋にあたりテントをわんざとつめ込んだから。かすの中を歩いていると、傘(くま)かたない。前の2人の帽子からはみ出した髪のかすがついて、次第に米粒を落し始める。やがて霧雨となり、大粒の雨となる。雨具をつけず、すりや道を下りて 9:30 木曾殿越に来た時は、もうかなりはげしくなっていた。せめて空木まで行きたかったが、この上りかかなりあるし、前線も近づいていることだろうから、結局ここに止まることになった。しずんだツェルト中を、やがてガマテトの話題になり、すくわれた。教子さんのおかけである。4時の天気図をみると前線は5:30頃真上に来た。夕方6:00 夕日かざし始めた。明日通るであろう南駒が美しくはえた。

8月8日 晴れ。昨日決めたごとく下山する。空木のピークからは、檜から何からみんな見えて、もちん教日後、我々が居るだろう聖岳も見えて、その間に深い伊那谷があり、他のパーティーの事や森たちの事を考えるのだが、さあ、今、こうして聖岳を見ていて、教日後、今度はこうして中央を見るのだから、その時何やかやと色々感じることは、その心の効か？果敢だったのである。この山行を計画した意図は。

# 南アルプス南部縦走記録

1970年 Member L.福田(2) 三坂(2) 白井(1) 液部(1)

8月10日 ① 伊別市 福田氏アパート集結 買出しパッキング

11日 ① 伊別 4:33 → 伊 7:10 ~ 15① → 遠山川  
→ 西沢沼 14:30 ①

12日 ② 西沢沼 5:40 → 主稜線 9:35 ~ 42 →  
サジサツで 聖岳往復 頂上 10:57 ~ 11:15  
② カス → 元の主稜線 11:58 ~ 13:03 ②  
→ 聖平 13:18 ②

13日 ① 聖平 6:12 → 上河内岳 頂上下 7:50 ~ 8:05  
ユテアスキ ヨタナル → 蒸白岳 頂上下 9:00 ~ 10  
→ 易老岳 11:08 → 光小舎 13:11 ①

14日 ② 光小舎 5:15 → 信濃俣 7:58 ~ 8:06 ②  
→ 大根沢 飯場 14:50 ~ 15:10 → 小根沢  
飯場 16:45 ~ 17:04 → 林道に設営する  
18:30 ② 夜半から降雨

15日 ③ TS 5:55 → 栗代橋 10:05 ~ 33 ③ →  
寸又峽 10:53 ~ 11:05 ③ → 千頭 12:05  
~ 20 ③ → 金谷 13:35 ~ 37 → 豊橋  
15:17 ~ 16:31 ③ 解散 (白井 岐阜に帰省)

→ 伊那市田 20:56 ③  
16日 ④ ~ ① 福田氏宅で "遅" す。スイカの味・トウモロ  
コシの味 etc ~ etc。市田 18:28 → 伊那  
→ 松本 三坂氏・液部 駒草寮 帰る。

11日・15日の南アルプスの長いアプローチに、入山は炎  
天で、下山は雨で、泣いた。それだけに印象に残り、ア  
プローチのもつ、語感の素晴らしさ・良さを、今一度山を  
想ふ時、考えてみたい。

台風のために、14日予定を変更して、寸又に下山した。  
林道工事のため、高まきをさせられたり、いろいろ障  
害が起こり、苦勞した。

<記録 及 筆・液部>



# 赤石沢朔行報告

• Member 佐藤(C.L.) 鳥越(S.L.)  
三井(ESSEN) 川口(装備)

• 期間 8月10日 - 8月14日

## • 報告

8月10日 天気：晴れ

我々四人の放浪人は、突然の計画変更はあったが、とにかく赤石沢めざして早朝松本をstartした。甲府で乗り換え身延で昼食。バスに乗り換え一時間半程揺られ田代入口に着いた。アプローチも短くなり南アルプスも近くなった感じがする。バスから降りるとすぐに針金に板を渡したようなつり橋に出合い南アルプスに来たんだなあ、という実感がわく。このつり橋を渡り三層がたいにニヒックに登ると発電所、これを左手にみながら沢にキマニヒック登りコンクリートの建物の近くまでフライを張る。たき火を囲んでのメシはうまかった。

Time

松本 — 身延 — 田代入口 — 発電所 —  
(5=17) (10=40) (12=30) (2=05)

— 天場  
(3=55)

8月11日 天気：晴れ

露營地よりしばらく沢をいり登り急登に転じ、転付峠を登り切る。ここよりニ軒小屋迄いっきに下る。地下足袋での急下降はまったくつらい。椴島迄三ヒック強り陽ざしの中をポンカラポンカラ進む。途中貴重なタンパク源ヒキガエルを捕まえる。椴島には林

道がでさ橋もかかり、我々の期待は見事裏切られた。林道を下り赤石沢に入る。取付は思ったより貧弱で水量も多くはなかった。小立ながしを下り左岸を進み滝のあたり(右岩尾根)再び右岸を進みイワナ沢でザイルをスリッパし下降す。(以上嬢川)

C<sub>1</sub> — 取付峠 (5:15) — 二軒小屋 (6:55) — 樫島 (7:55) — イワナ沢 (11:30) (2200)

8月12日

昨日イワナ沢を越えお途の様子がわからないので川幅の広がった所にフライを張って寝たが今日は時間帯たっぷりあるので不安や期待をおし極くゆるりと出発した、すぐゴルジュとなったが軽量化と水量の少ないことからなんなくへつって行ける。白旗史郎の記録によればハーケンを打ったり、フックスをしたりと大変苦労したらしい。この上にはナメ滝が二段になり落ちていて中流の辺を渡って、彼等のルートはここから二エ沢の入口までずっと右岸の雑木林の中であるが、我々はできただけ三尺身を歩いた。水量が思ったほどでなかったためであるが途中ザイルをフックスして徒渉一回と腰までのトコを通過する際、残置ハーケンの所に新しくハーケン一本打ち40mのナメ。その後流や滝を二つばかり越えようとどうしてもどうしても行けないような滝とアチに出会った、台風は追っかけられているので、ここでも時間を取られることは痛いので高巻くこととする。50m程戻り富士重工のハーケンの目印から変なガリーのような所に取りつた、グッソのある岩尾根を登る、足身には40m位の滝が2段になり落ちていた。白旗史郎のいう富士重工の旗が全然

見つかからない。200m位登り見通しがきかないので木に登って見当をつける。牛嶋峠の林道が見えた。まだ全然進んでいないようだ。ガツカリする。大体の見当をついてしばらく登りラドックに入る。ブッシュのある尾根を二つ越えて山頂の尾根を越えることにする。大体のカンとしてはこの辺で二エ刻は終るはずである。どんどん下り。足が痛くなさ程下って、出たのは丁度二エ74の終りで沢鋭角に折れていす所の上であった。全員うきうきしたこと嬉しさもひとしおであった。ここから沢の様相は一変して、おた々かになり、大休止の後、どんどん歩き、距離をかせいた。ついで先程までの若さはどくへやらと思える夕々のせまる頃、ついに北沢の出会いに着いた。テリカイケトンが積んであった台月が気になるが、これで半分は終わったし安心してグッスリ寝た。

C<sub>1</sub> — 高橋き開始 (6:00) — 岩尾根 (9:30) — 北沢出合 (1:30) (5:00)

8月12日 ○ 風弱し。

予想外の快晴で、昨夕の雨、また台風が近づきつつあるのが信じられない。広い河原を進み、小滝を幾つか越えると、突然、大きな水の落ちる音と共に「門の滝」が顔面に立ちほだかる。中央上部の右で、2筋の水流となって落ちていす20mの滝である。右岸を巻いて滝上に出る。すると又、滝が現われる。滝の右のチムニ状の部分に登ぼる。(1本)。右岸の大ガランをトラバースして両岸が赤と白のシマ模様の岩壁で囲まれた河原で昼メシ。

これから赤石沢の大ゴルジュ帯である。これは右岸のシ

ボネ沢から小ルニゼに渡り、トラバースする。ここが  
 岳の稜線が見えホッとする。トラバースを続け、赤石岳原  
 におりる。ここは、テント1張り張れる場所。カワイコチン  
 ンサンと輝き、急場はしのいだ。赤石岳原の山頂は、  
 ここには、対岸に小雪山の山頂が見え、山頂の雪を  
 を食ひ、山頂の雪を食ひ、山頂の雪を食ひ、山頂の雪を食ひ、  
 の所以外は、さしたる問題もなく、出合のテントをたて、

T.S — 門の滝 — 大ゴルゴテ入口 — 赤石岳原  
 AM6:15 7:15 11:30 PM3:30

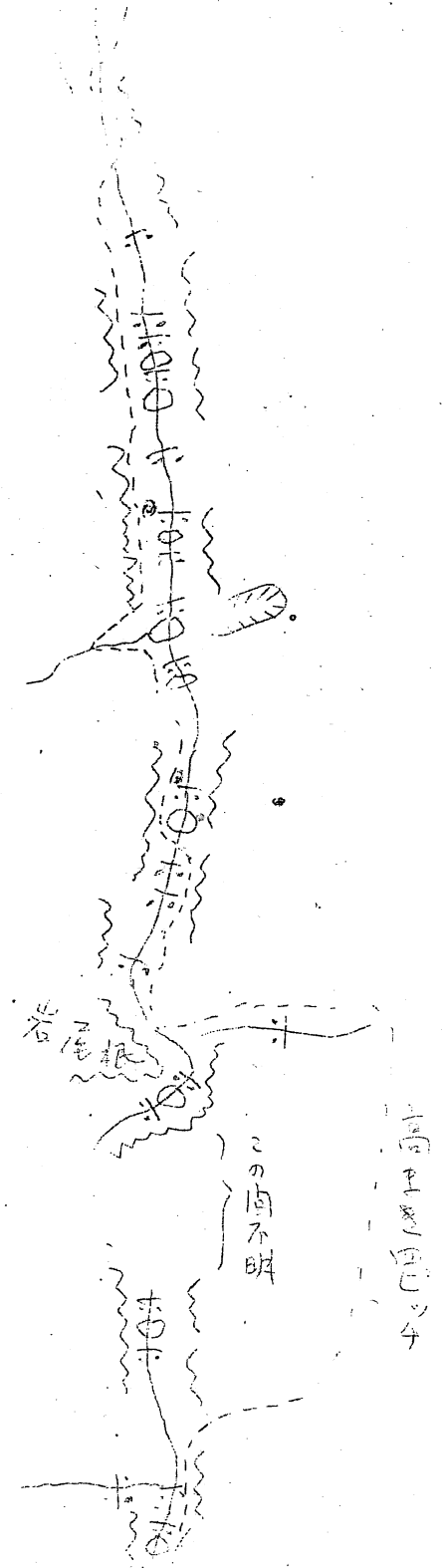
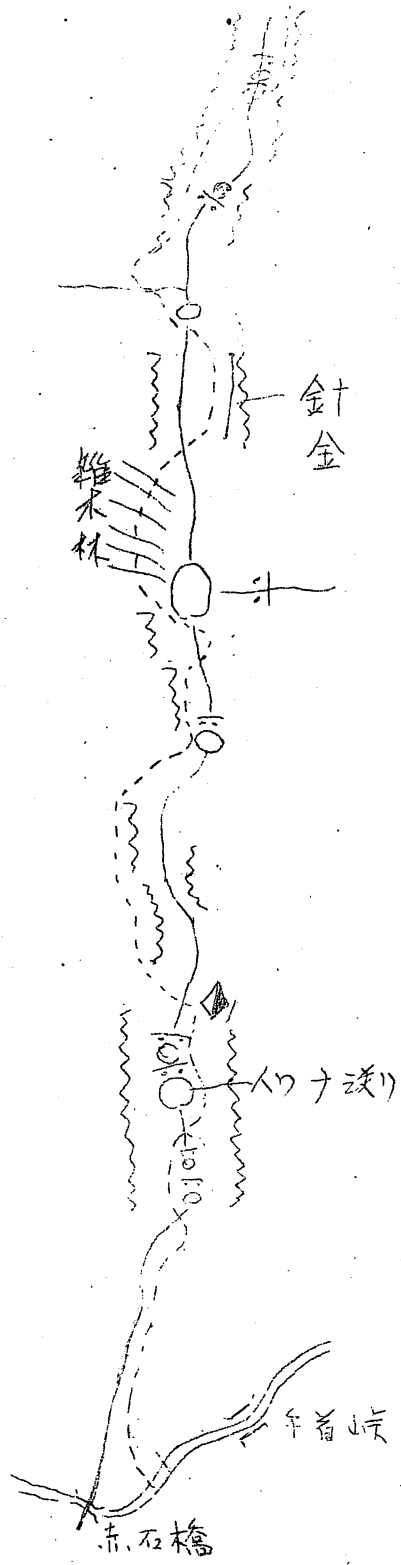
8月14日 ● → ◎

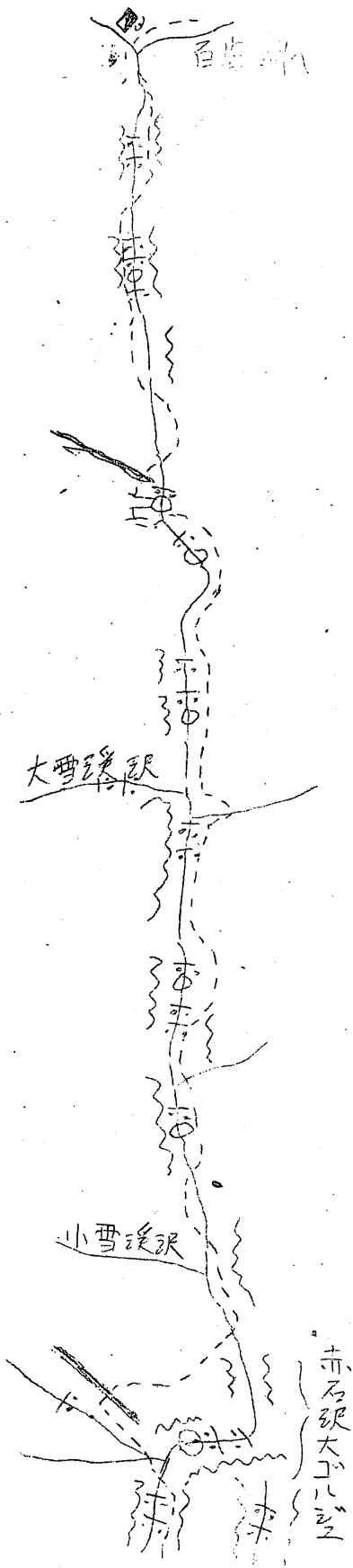
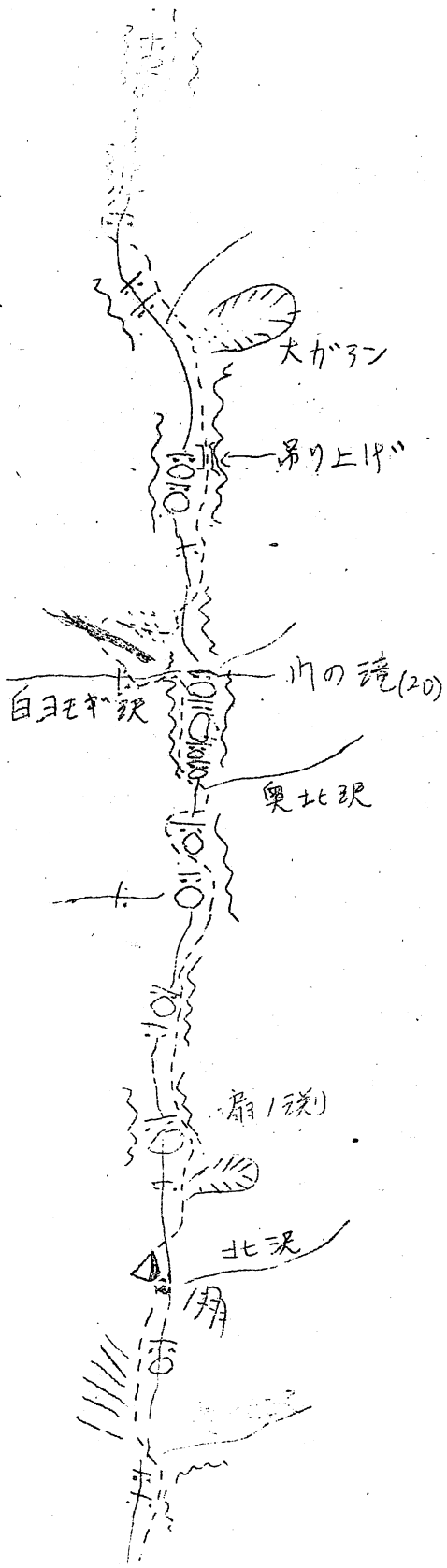
台風の影響を受け、天気が悪い。明大P.の11-12時に  
 見ながら行く。心配される増水も、小雨で、増水も  
 ど昨日と変わりない。別段取り立てて、増水も、増水も  
 が続く。しばらくして30mの百間洞の洞窟に入る。洞窟  
 を巻き上に出ると、もう逆行完了も同じである。百間洞の洞窟  
 地で休んでいると、逆行開始以来初めて、カワイコチンを見る。  
 赤石岳への稜線は、雨を混えた風が吹いていた。福田P.の草  
 など話しながらPeakに到着。眺望皆無。下りを急ぐ。走り様  
 にして、大聖寺平を越え、赤河原小屋についた。赤河  
 の湯を通過後、バスが見えたので、今日中に伊那に帰れる  
 が出た。バスター伊那大島、飯田線で伊那到着。南散。

T.S — 百間洞露营地 — 赤石P. — 大聖寺平 — 赤河原 — 伊那  
 6:00 7:50 10:30 11:20 PM:05 3:50



# 赤石沢逆行地図





## 赤石沢登山概要

山岳部という所は難かしい所である。部の方針、部員構成、個人の目標、あまかなシカの伝統、教え上げればきりが無い。これらを妥協的にでも一途とり合せて満足させなければならぬ。南アルプスの沢を放浪するというこの計画はこれらの矛盾するような条件をふまえて、現身の登山という総合的な登山技術を要求され、又常にロマンチックな発想で為される山行ということから、いっても余すところなく僕らに何かを与えてくれるはずであった。しかし入山前になつてリーダーの入山日数不足から計画を縮小し、沢の放浪ということからいえば全く用を為さないようなものとなつてしまつた。が赤石沢自体のスケールからいっても我々四人にとっては大きな満足感と魅力あるものであった。快適なヘツリ、河原歩き、冷たい徒渉の繰り返し、苦しかった高倦き、イヤライ草付等、変化は無限であるが、今思えばこれらは、全マリズムであり、テンポである。しかし残念なことに沢を抜けると縦走路であるという関係から最後のハイ松こぎがなかつたことは、この沢の印象を浅くしてしまつた。パーティー内部には何ら支障はなかつたし下級生は実によくやってくれた。リーダーが自分の登山の希望と部の登り方との間を解決しないで入山したのは非常にまずい点で今後の課題とならう。

計画をこなして行くことではそれぞれに基礎は出来ていたと思われ、トップを歩く二年生にしてみれば、いろいろ勉強してもらったことはあったが、二年目では充分のものであると思う。各月に追いつけられなければ、もっとノンビリと出来たはずであったが、少し忙がしすぎた。

俺と鳥越のコンビはどうしてイフナが恵まれないのたろるか、大いなる疑問である、同時に痛切なる自己嫌悪に落ち入った

(文責 佐藤氏)